

印西市消防団が健闘

千葉県消防操法大会で優秀賞

去る6月30日、八街市で開催された印旛支部消防操法大会において、印西市から2チームが出場しました。

小型ポンプの部では第3分団第9部(大森)が優勝、ポンプ車の部では第1分団第1部(木下)が準優勝と好成績を収め、印旛支部の代表として7月27日に千葉県消防学校で開催された千葉県消防操法大会に出場し、共に上位入賞を果たしました。



▲競技を行う第3分団第9部(上写真左)と第1分団第1部(上写真右)のみなさん



▲千葉県消防操法大会では猛暑の中、見事上位に入賞する健闘を見せてくれました



印旛支部・千葉県の各大会前は、夜間や休日に猛特訓を行いました

消防操法大会は、消防技術の基本となる動作を正確かつ安全、迅速に行い、消防操作の向上をもとより消防の任務の重要性をお互いに確認するとともに、平素の消防団員の訓練の成果を発表し消防操法技術の向上と士気高揚を図り、もって地域防災体制の確立を期することを目的として開催されています。

また、消防操法には「小型ポンプ操法」と「ポンプ車操法」があり、出場したチームは機敏な動作で、設置された防火水槽から

ら火災現場を想定した火点までの放水に要する時間と現場撤収するまでの規律正しい操作を競います。

◆印旛支部消防操法大会

6月30日、八街市スポーツラザで開催された印旛支部消防操法大会は、梅雨の晴れ間の一日、印旛郡市の9市町を代表する消防団が、日頃の訓練成果を發揮し、消防操法技術を競い合いました。

◆千葉県消防操法大会

7月27日、千葉市の千葉県消防学校グラウンドで開催された千葉県消防操法大会は、前日までの曇り空が一転、夏空の下、

4番目の出場順位で、それぞれが訓練の成果を發揮し県大会出場を決めました。

千葉県内10地区を代表する消防団が出場しました。

◆印西市の大会結果

【印旛支部消防操法大会】
●ポンプ車の部：準優勝
●小型ポンプの部：優勝
【千葉県消防操法大会】
●ポンプ車の部：優秀賞
●小型ポンプの部：努力賞
●消防操法課防災班(☎内線453)。

◆旭日単光章

小池氏は、昭和58年4月から4期16年の永きにわたり、

本埜村議会議員として同村の発展に尽力されました。

勝田敏之氏が旭日小綬章を受章

勝田氏(76歳・平岡)は、昭和58年4月から7期28年の永きにわたり、印西市議会議



▲勝田 敏之氏

員として同市の発展に尽力されました。

この間、印西町議会議長をはじめ、印西市議会文教福祉常任委員会委員長、同市議会ニュータウン等対策特別委員会委員長を務められたほか、印西地区消防組合協議会議長としての要職なども歴任され、地域住民の福祉向上に貢献されました。

◆高齢者叙勲◆

◆旭日単光章

小池 侯郎氏(88歳・下井)



▲小池 侯郎氏

本埜村議会議員として同村の発展に尽力されました。

この間、平成3年5月から8年間、同村議会議長として、また、平成10年4月から1年間、千葉県町村議会議長会会長として要職を務められたほか、本埜村農業委員会委員、印西地区消防組合協議会なども歴任され、広く行政に貢献されました。

ジェイアラート J-ALERTの全国一斉緊急情報伝達試験を行います

市では、地震や武力攻撃などの災害時に、全国瞬時警報システム(J-ALERT)から送られてくる国からの緊急情報を、さまざまな情報伝達手段を用いて確実にみなさんへお伝えするため、市で活用している防災行政無線および防災メールなどにより、情報伝達試験を行います。

■9月11日(水)・午前11時および11時30分ごろ。

【印西市が実施する試験】

- ①防災行政無線の放送。
- ②防災メール、防災ツイッター、防災ホームページ、ケーブルテレビ。

※①は、11時ごろおよび11時30分ごろの2回、②は、11時30分ごろの1回。

※印西市以外の地域でも、全国的にさまざまな情報伝達手段で試験が実施されます。

【J-ALERT(ジェイアラート)とは】

地震・津波や武力攻撃などの災害時に国から送られてくる緊急情報を人工衛星などを活用して瞬時に情報伝達するシステム。

※詳しくは下記まで。

☎防災課防災班(☎内線454)。

新ごみの分別大事典シリーズ⑤

マイバッグ利用でエコライフスタイル

スーパーやコンビニなどで買い物の度にもらえるレジ袋は、日本で年間約300億枚が使用されていると推定されています。これは、1人1日約1枚を使う計算になります。

レジ袋は、手軽で便利のため、日常生活に定着しているものともいえます。

しかし、このほとんどがごみとなることを考えた時「環境保全・環境への負荷の低減」といった観点では何とかしたいものです。

レジ袋をまったく使わないようにすることは、難しいかもしれませんが、買い物にマイバッグを持参して、レジ袋の受け取りを断ることは、自分でできるエコ活動といえます。

昨年度、市のマイバッグ推進協力店(10店舗)で行った調査によると、来店された方の約25%がマイバッグを利用されていました。

スーパーなどによっては、レジ袋を辞退した人に値引きやポイントを付加するなどの特典を設けている店も多くあります。

マイバッグは、かわいらしいデザインや、コンパクトに収納できるものもあるので、買い物を楽しみながらエコライフスタイルを実践してみたいかでしょうか。

☎クリーン推進課クリーン推進班(☎内線382)。